

福岡県桂川町立 桂川中学校



不登校を始めとする長期欠席生徒支援の取組み

～ ドリルの学習履歴と生徒支援委員会 ～

桂川中学校では、不登校などの様々な理由で登校できない生徒について、e ライブラリ家庭学習の履歴を確認し、「出席扱い」と認めている実践と、先生同士で生徒の情報を共有している「生徒支援委員会」の様子をご紹介します。

家庭で学習した「教科」と「学習時間」を確認

学習日	進捗	学習回数 / 目標	レベル	ドリル学習回数	学習時間
2022/02/21		80 / 100	チャレンジ	1	2分
2022/02/21		100 / 100	チャレンジ	0	1分
2022/02/21		100 / 100	標準	0	1分
2022/02/21		100 / 100	基本	0	1分

生徒は、先生と保護者と話し合いながら、最大限の努力で達成できる目標を設定して、e ライブラリで学習します。

先生は、家庭訪問の前に、各教科で十分な学習時間を確保できているかを確認します。

定期考査を受けたあと、生徒は「毎日学習していたけど、量が足りなかった」と、e ライブラリの学習をふりかえり、次の目標を設定します。

教科	確認テスト		ドリル学習		学習内容傾向		配課教材 確認回数 学習回数
	実施回数	平均点	学習回数	平均点	得意	苦手	
数学	未実施	-	4	95	5%	2	2
国語	未実施	-	8	97.5	0%	5	0
英語	未実施	-	5	96	0%	10	0
理科	未実施	-	4	95	0%	3	5

▲ ドリル結果詳細と教科別学習回数

「取組姿勢」から生徒が前向きに学習し続けるための声かけを

月	実施数/出題数	実施率	自由学習 回数	確認テスト 平均点	確認テスト めくった数/総数	コミュニケーション 回数	ログイン 回数
4月	1/16	6.3%	4	12.6	0/0	0	7
5月	未実施	-	1	59.6	0/0	0	9
6月	6/31	19.4%	70	13.8	3/20	2	19
7月	11/42	26.2%	26	12.6	4/16	3	30
8月	5/6	83.4%	7	9.3	0/0	0	34
9月	8/23	34.8%	1	9.6	0/10	0	12
10月	4/7	57.2%	2	9.4	3/17	0	19
11月	3/14	21.5%	0	6.6	4/77	0	44
12月	11/45	24.5%	6	20.1	7/32	0	26
1月	4/46	8.7%	18	14.9	12/63	0	11
2月	未実施	-	4	65.1	0/17	0	10
3月	未実施	-	-	-	0/0	-	-

▲ 先生メニュー 成績管理 取組姿勢

e ライブラリの成績管理から、各教科の学習時間や取組姿勢がわかるので、先生が生徒の頑張りを認めるきっかけにもなり、生徒は、さらに頑張る取り組みようになりました。

保護者も学習の過程と成果がわかることで、「先週よりも頑張ったね」など、子どもの頑張りを応援しやすくなりました。

インタビュー 新学期に全校で e ライブラリのガイダンスを

情報担当が主軸となり、e ライブラリの学習に必要な I D カードの印刷や端末の設定、情報モラルに関するスライド作成を担当しています。その情報をもとに、**新学期には、学級担任がガイダンスを実施し、生徒がスムーズに e ライブラリで学習を始められるよう環境を整えています。**

不登校だけではなく、感染症対策による自主休校や病気による長期欠席など様々な理由で学校に登校できない生徒がいます。生徒が学校に来ることができない状況になっても、学習の機会を得られるように環境を整え、教員をサポートしています。



情報担当
石坂浩仁先生

「生徒支援委員会」で生徒の毎週の状況を共有し新たな支援策を決定



▲ 管理職、学年の先生、スクールソーシャルワーカー、サポート教室担当者など様々な視点から支援を検討

毎週の「生徒支援委員会」では、各学年の先生が集まり、気になる生徒の家庭環境や友人関係、精神的な不調などを共有しています。特に登校できていない生徒は、eライブラリの学習履歴を参考にすることで、家庭での学習の様子を知ることができます。

先生方は、生徒の悩みや現在の状況を伝え、管理職やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの先生から必要な情報や今後の対応など助言を得ながら、新たな支援策を決定しています。

取組みのポイント

- 文部科学省の「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」を根拠に、福岡県では、自治体と学校が一貫して不登校支援に取り組んでいる
- 管理職から通知の意図や学校の方針を伝え、先生全員が共通理解して組織的に支援・指導する

福岡県不登校児童生徒支援グランドデザイン (第1版)

～多様な適切な教育機会の確保による社会的な自立を目指して～

インタビュー

非認知能力を高めることが社会的自立や学校復帰につながる



教頭
河島健治先生

不登校の生徒にはまず元気や自信、やる気が身に付くことを期待して、eライブラリを活用しています。eライブラリで家庭学習したことが、出席や評価につながれば、対象の生徒や保護者の励みや次の目標になります。

実際に、自分の努力が認められた経験を積み重ね、一度も登校できなかった生徒が学校に来ることができました。

このようにeライブラリを活用することが、**生徒の学習意欲を高めたり、登校にチャレンジしたりするなどの変化につながっていました。**

インタビュー

自ら学び、夢の実現に努力を重ね、たくましく前進する生徒

文部科学省が、学習機会を失っている不登校児童生徒に対して、ICT等を活用して「出席扱い」にするよう通知を出しました。その通知文を根拠に、生徒・保護者・教員が、生徒の社会的自立に向けて懸命に取り組み、本校の「出席扱い」が成り立っています。**eライブラリの家庭学習を通して、生徒が褒められる喜びを実感し、自ら先生に質問しながら、主体的に学習する様子が見られるようになりました。**

地域が抱える問題や人間関係など困難な状況に置かれ、全国的に登校できない生徒が増えています。一度くじけてしまってもそこから立ち上がって、「学校に通いたい!」と生徒が思えるよう、地域・学校・家庭が一丸となって取り組んでいます。



校長
石田英喜先生

※本紙の情報は取材当時（2021年度）のものです。